

第 5 次振興計画の基本構想について

1 町の将来像(案)

【キャッチフレーズ】

みんなで創る、未来につながる、暮らしやすい箕輪町
～ 人口減少・少子高齢化時代への挑戦 “箕輪チャレンジ”～

- 箕輪町はこれまでに大幅な転入超過を達成し、多くの町民が暮らしている。
- 箕輪町が長年かけて作り上げた暮らしやすさを振り返ることが必要。
- 自然減を中心とした人口減少・少子高齢化時代が箕輪町にも到来。
- 新たな時代を迎えても町の暮らしやすさを未来につなぐとともに、町民とともに町の魅力を高めて、住みたい町・住み続けたい町でありたい。

2 将来見通し

これまでの傾向が続けば、2025 年に 24,102 人まで減少するが、少子化対策や移住定住施策等により、24,800 人の達成を目指す。

3 現状と課題

(1)人口動向

- 過去の人口増加率は 32.9% (1980 年～2010 年では、県内 6 番目の高さ)
- 2008 年から人口減少 (2008 年の 26,479 人から 919 人減少)
- 現在 25,560 人 (H27.4.1 県内町村の中で最多人口、全体で 19 番目)

(2)箕輪町の暮らしやすさ

- これまでに築き上げた暮らしやすさ

項目	内容
広々とした自然環境	豊かな自然とアルプス等の景観
安心・安全のまち	セーフコミュニティの認証取得
協働のまち	地区単位の協働事業を推進
医療体制	救急医療、高度医療の体制構築
支えあう地域福祉社会	災害時の支えあいマップを全区で作成
子育て・教育を推進	ひと味違うみのわの子ども育成
働く場のあるまち	昼夜間人口比率 1.0 以上を達成
道路等の都市基盤	町内の移動時間が車で 15 分以内
若者が住むまち	他市町村に比べて低い高齢化率

(3) 課題

いつまでも暮らしやすい町に

○少子高齢化が進み新たな行政課題が生じると予想される中、これまでに築き上げた暮らしやすさを未来へつなげたい。

事業の見直しと取捨選択

○従来 of 事業については必要性等の観点から見直しを行い、事業の取捨選択を行う必要がある。

町民と一体となったまちづくり

○また、税収減等により行政だけで対応出来ないことも起こりうるため、町民と一体となってまちづくりを進める必要がある。

4 対応

○町の将来像を実現するため、以下のような施策に取り組む。

項目	対象者	施策
協働で築く安全・安心なまち	全町民	■集落等のコミュニティの確保 ■徹底した安全・安心の確保 ■安全で利便性の高い社会基盤 ■ニーズに合わせた公共交通
安全で利便性の高い社会基盤	全町民	■美しい自然環境の継承 ■道路・上下水道等社会基盤の整備
子育てに適したまちづくり	結婚適齢者 子育て世帯	■婚活活動の支援 ■出産しやすい環境づくり ■育児支援事業の充実
明日を担う地域人材の育成	15歳未満人口を 中心に全町民	■地域に愛着を持つ人材の育成 ■交流の場の創出 ■学校教育・社会教育の充実 ■文化やスポーツの振興
働く場所に恵まれたまち	労働者 新規就労者	■町を支えてきた産業の振興 ■新分野の開拓支援 ■雇用の確保
健やかに心豊かに暮らせるまち	65歳以上人口	■健康づくりの推進 ■医療体制の充実 ■高齢者福祉の充実
新しいまちづくり	全町民 町外の方	■町の魅力の発信 ■移住定住の推進

○事業の実施にあたっては、政策評価などで、優先度を検討したうえ、限られた財源を工夫しながら進めていく。

○広報等の情報発信を積極的におこなうなど、町民との協働を生み出すように努める。